

50501

教科書文庫

5
810
34-1947
20000 67133

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

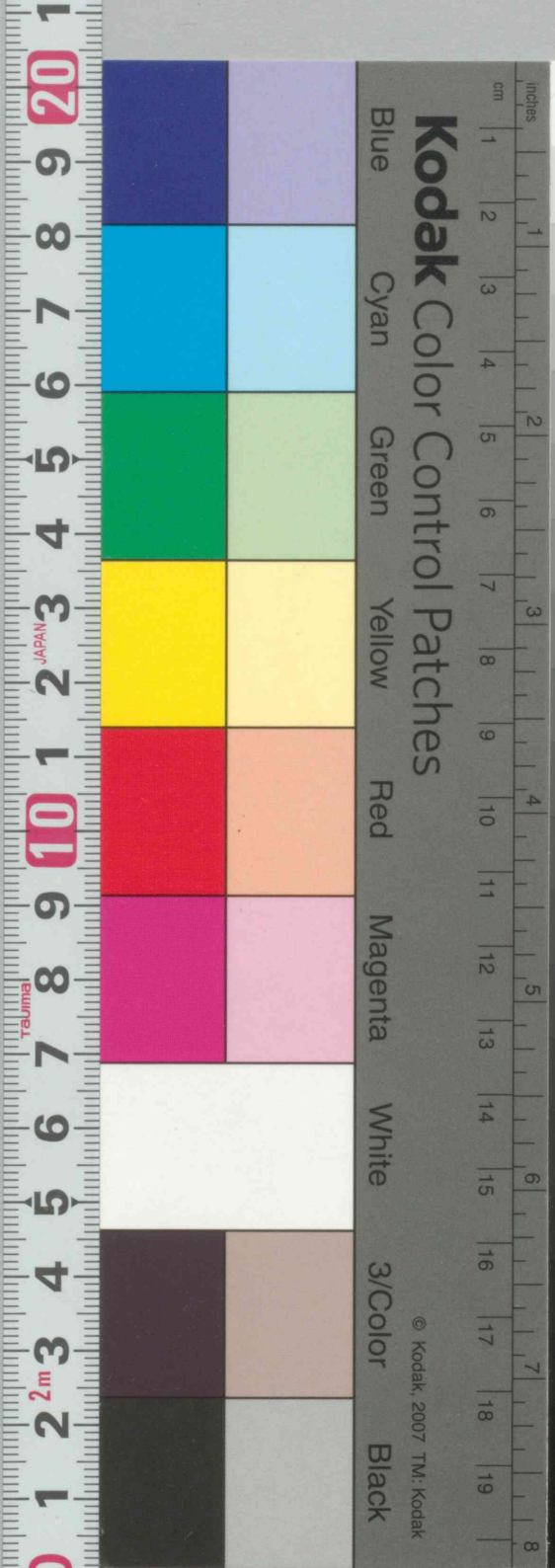


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



3a
810
昭22



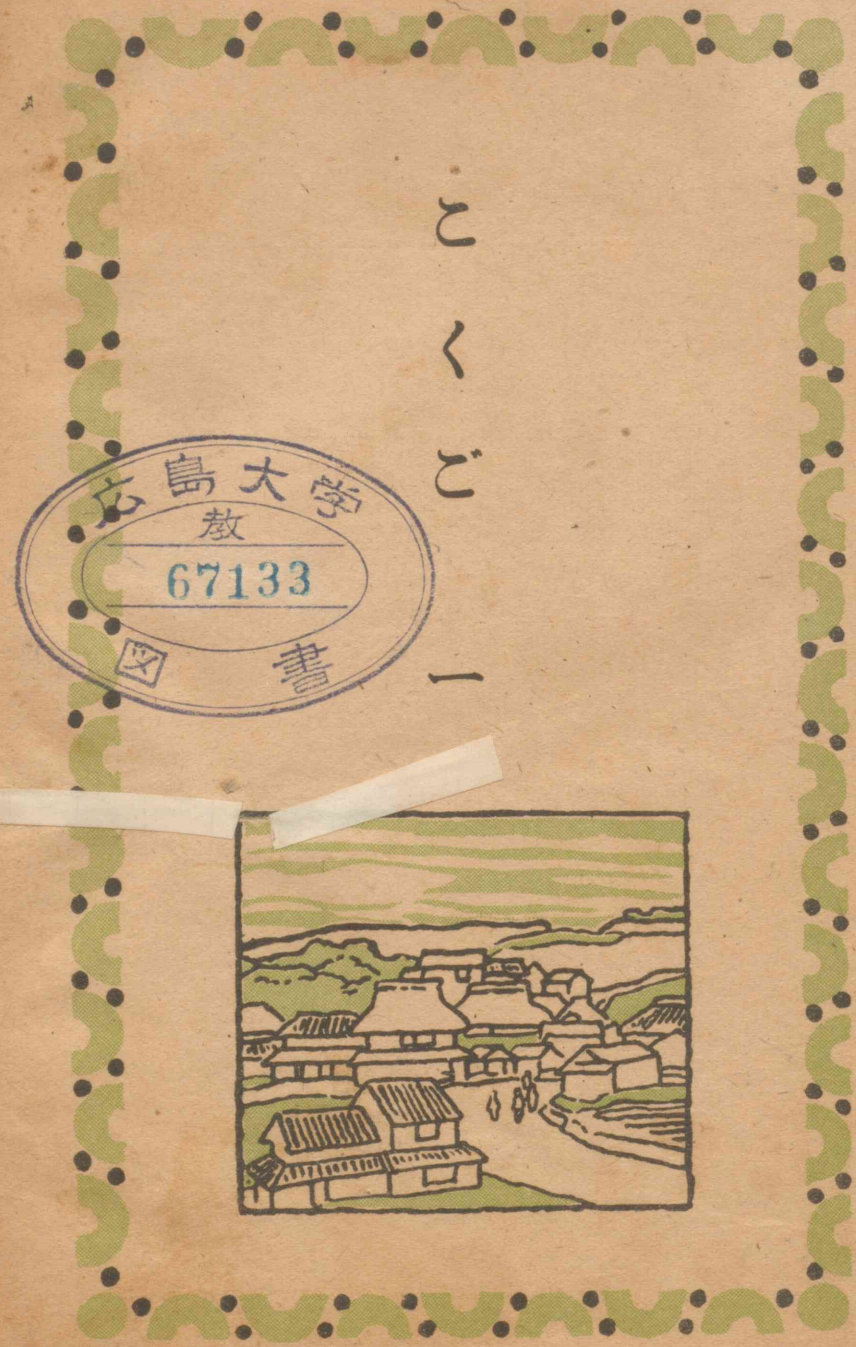
三美

ハ  
ハ  
ハ

購入	年	月	日
部	類	第	
		号	
上	小	学	校



資料室



こ  
く  
こ  
一



3a  
810  
B22



- 一 もくろく
- 二 みんな いいこ
- 三 なのはな
- 四 むすんで ひらいて
- 五 たまいれ
- 六 かくれんぼ
- 七 もちもの
- 八 よみかき
- 九 あさの こくばん
- 十 ゆうぎ
- 十一 ゆうやけ こやけ
- 十二 あいさつ
- 十三 人の かお
- 十四 手と 足
- 十五 ひとつの ことばから
- 十六 なって みたい もの
- 十七 だんだん くわしく なる
- 十八 山の つつじ
- 十九 お月さんの くに

四十三 四十 三十七 三十四 三十一 二十九 二十七 二十四 二十一 十八 十七 十五 十四 十二 九 八 六 四



新字  
おはなをかぎる  
よし  
—

みなな いいこ。  
なかよし こよし。

きれいな ことば、  
みなな いいこ。



— みんな いいこ

おはなを かぎる、  
みなな いいこ。



新  
の  
ま  
つ  
ろ  
く  
ま  
う  
ニ



なのはな、  
「おはよう。」  
「おはよう。」  
なのはな、  
なのはな、  
なのはな。



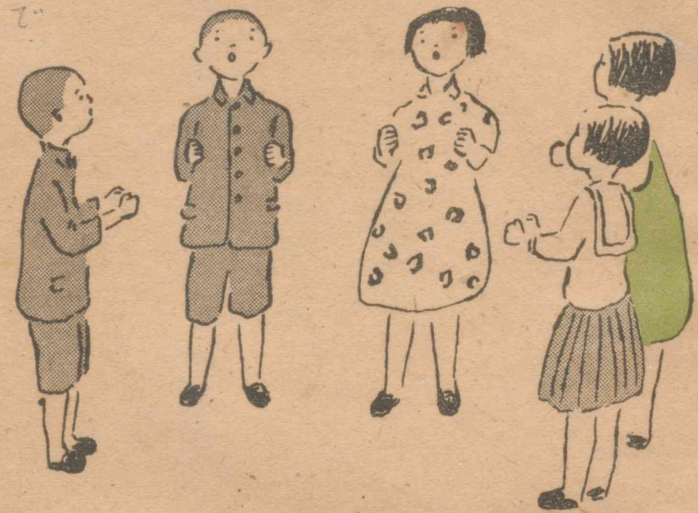
なのはな、  
なのはな、  
まつのき。  
なのはな、  
なのはな、  
しろい くも。



二  
なのはな



新字  
たむ  
そらす  
えてで



三  
むすんで ひらいて  
むすんで、  
ひらいて、  
てを うって、  
むすんで、  
また ひらいて、  
てを うって、  
その てを うえに。

新字  
あ

四 たまいれ

しろい たま、

あかい たま、

しろい たま。

あかい たま、

あかい たま、

しろい たま。

「ほいっ た。」



「ほいった。」

しろい たま。

「ほいった。」

「ほいった。」

あかい たま。

十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百。

「かごに はいった たま。」

を かぞえましよう。

さきにしるい たまを

かぞえましよう。

「ひとつ、ふたつ、みっつ、よっつ、いつつ、むっつ、な

なつ、やっつ、ここのつ、とお、十一、十二、十三、十

四。

「こんどは、あかい たまを かぞえましよう。」

「ひとつ、ふたつ、みっつ、よっつ、いつつ、むっつ、な

なつ、やっつ、ここのつ、とお、十一、十二、十三、十

四。

「おや、どちらもおなじでしたね。

もう 一ど やりましよう。」



五 かくれんぼ

かくれんぼ する もの、  
よっといで。

じゃんけんぽんよ、  
あいこでしょ。

もう いかい。

まあただよ。

もう いかい。

まあただよ。

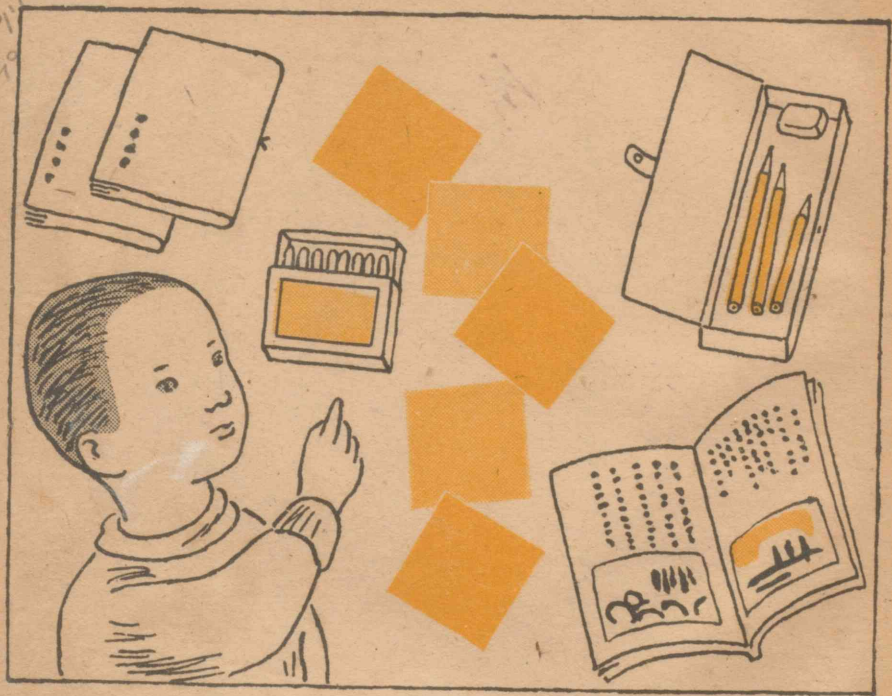
~~もう~~ いかい。

もう いかいよ。





六  
あ  
ほ  
め  
が  
ひ



六 もちもの

わたくしのもちもの。

ほん 一さつ、

ちゅうめん 二さつ、

いろがみ 五まい、

くれよん ひとつはこ、

ふでいれ ひとつ、

えんぴつ 三ほん、

けしごむ ひとつ。

めり

七 よみかき

じを よむ ときには、

くちを つかいます。

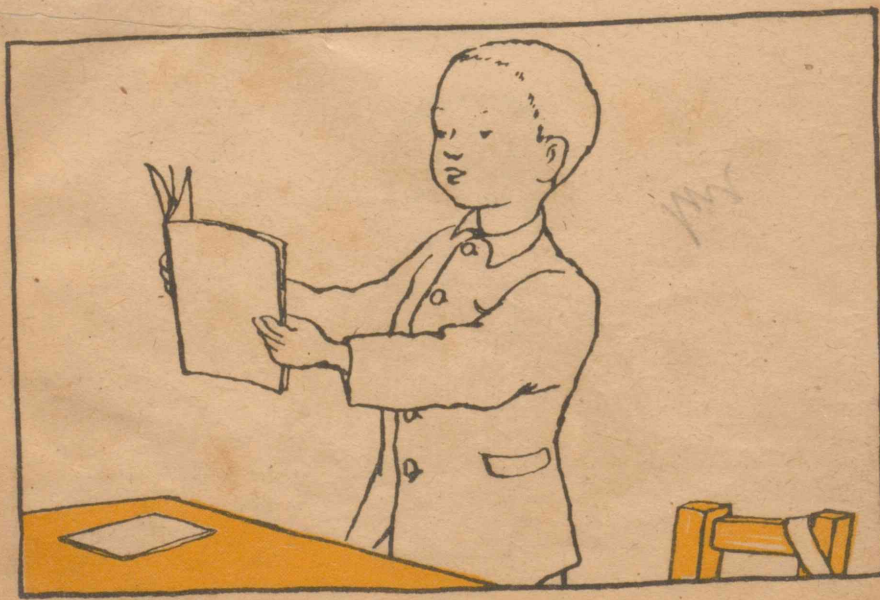
めも つかいます。

いきも つかいます。

こころも つかいます。

まよひ  
よみのう  
こころ  
じをよむ  
めもつかいます

こころのちやなをいかにせよ。



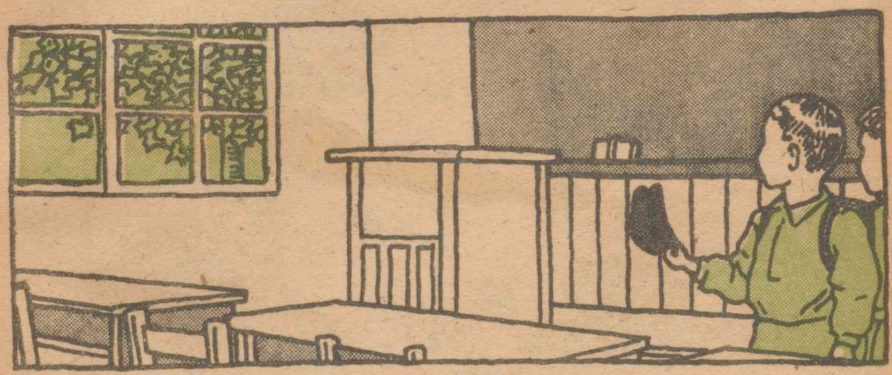
じを かく ときには、  
 てを つかいます。  
 えんぴつも つかいます。  
 かみも つかいます。  
 まだ あります。  
 なんてしょう。



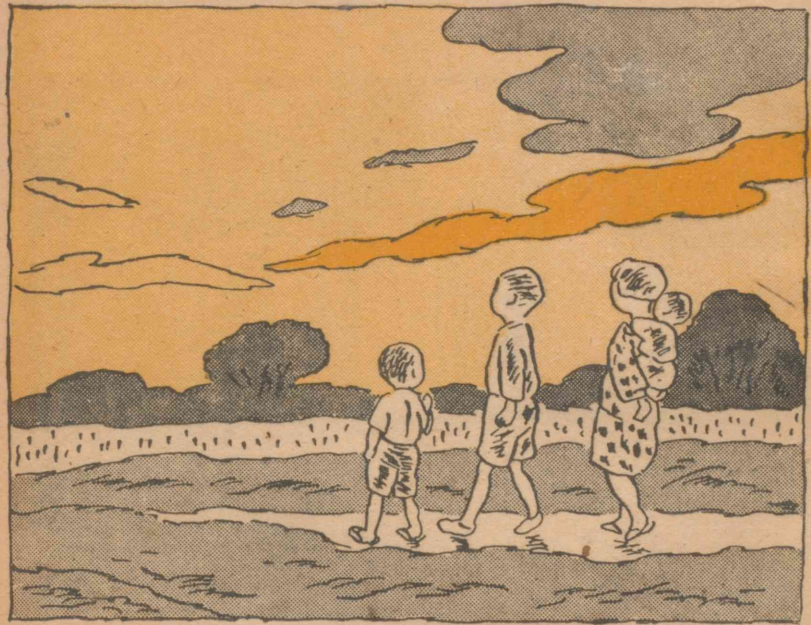
文。

あさのこくばん  
 まどのきのほ  
 せみがは

きょうは、  
 せ



ハ あさの こくばん  
 あさの こくばん きれいだな。  
 まどの きの はが うごいてる。  
 きょうは、  
 どんな えが かかれるでしょう。  
 どんな じが かかれるでしょう。  
 だれが かくでしょう。  
 だれが よむでしょう。  
 せみが どこかで なきだした。



十五やおつきさま

みてはねる。

○

ひらいた、ひらいた。  
 なんのはなひらいた。  
 れんげのはなひらいた。  
 ひらいたとおもったら、  
 みるまにつぼんだ。



九 ゆうやけこやけ

ゆうやけこやけ。

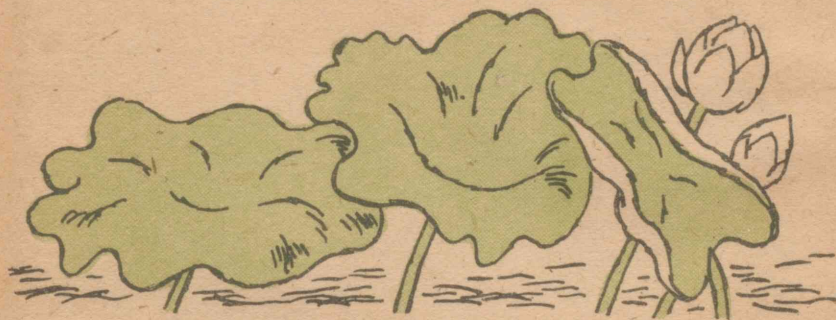
あした

てんきになあれ。

○

うさぎ、うさぎ、

なにみてはねる。

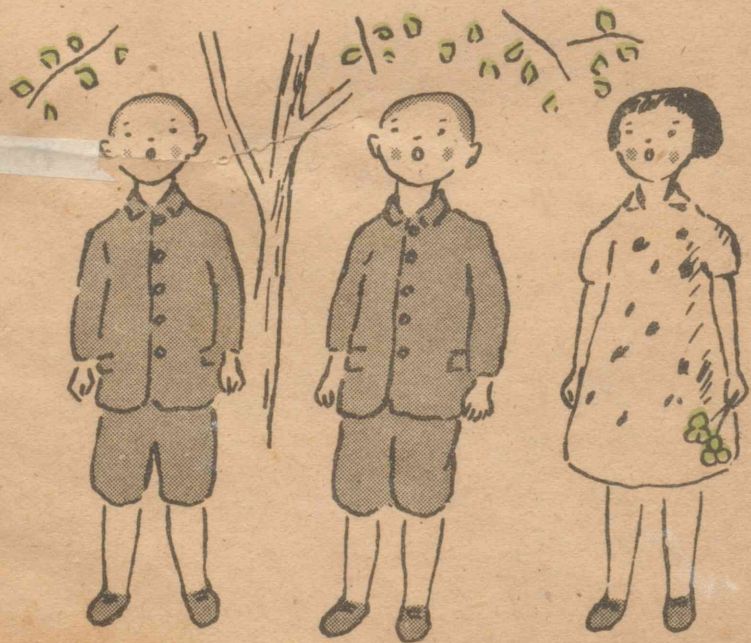


つぼんだ、つぼんだ。  
 なんのはな つぼんだ。  
 れんげのはな つぼんだ。  
 つぼんだとおもったら、  
 みるまにひらいた。



十 ゆうぎ

おてて つないで、  
 のみちを いけば、  
 みんな かわいい  
 ことりに なって、  
 うたを うたえば、  
 くつが なる。



①  
 一、読み  
 二、うたを  
 三、くつがなる

かぞええい  
ゆうぎ  
かかって  
けんさまく  
りまうて  
らっほ  
あしぶみ  
ひんびん

いま、おてて つないでの うたを うたいました。  
それから、この うたの ゆうぎを、みんなが かって  
かんがえて おどりました。



「わたくしは、おてて つな  
いでの ところで、おともだ  
ちと てを つなぎました。  
「のみちを いけばの ところ  
ろは、げんき よく あるき」

ました。

みんな かわいい ことりに なつての ところは こ  
まりました。そこで、りょうてを はねのように うごか  
しました。

「うたを うたえばでは、くちに てを あてて、らっぱ  
のように しました。  
「くつが なるでは、あしぶ  
みを しました。  
「ぼれた おそらに くつが  
なるでは、てを うえに さ





「こんにちは。」

十一 あいさつ

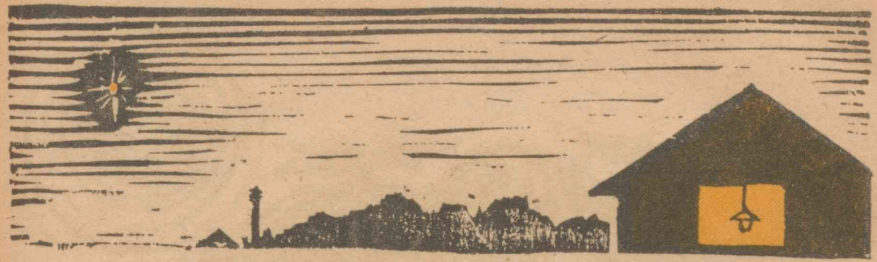
しあげました。  
 ニばんの「ぼねて おどれ」  
 ばの ところは、びょん ぴ  
 ょん とびました。ここが  
 一ばん おもしろかったと  
 おもいます。

「こんにちは。」

たねまき する 人、  
 いえを たてる 人、  
 さかなを とる 人、  
 きしゃを はしらせる 人。

「こんばんは。」  
 「こんばんは。」  
 一ばんぼし みつけた。





二ばんぼし みつけた。  
こもりうたが きこえます。

「おやすみなさい。」

「おやすみなさい。」

ことりも ねまりました。

らじおも ねまりました。

くさも きも ねまりました。

十二 人の かお

目は ふたつ、

みみも ふたつ。

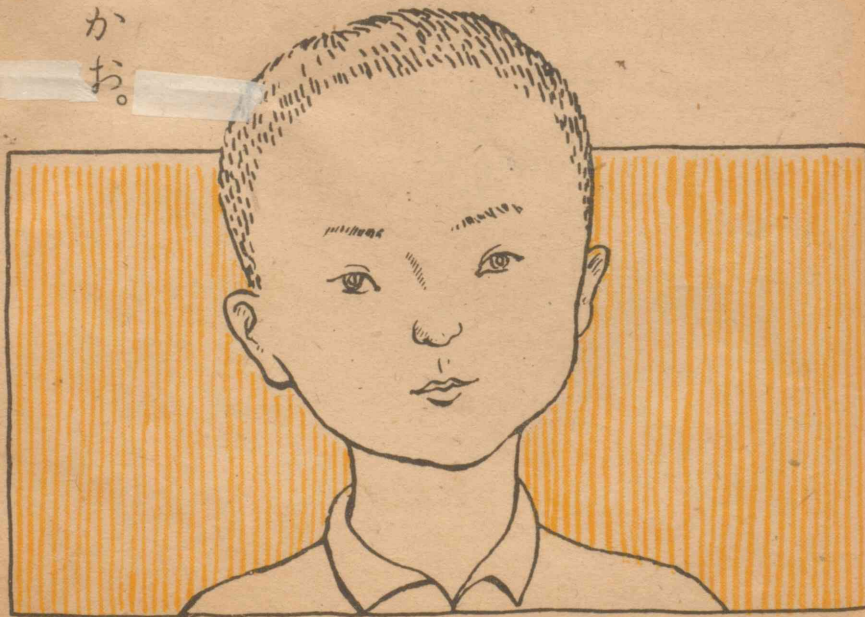
口は ひとつ、

はなも ひとつ。

だれも だれも

おなじ かお、

だれも だれも ちがった かお。





ひとつの おおが、

わらったり、

ないたり、

おこったり、

よろこんだり、

かんがえたり、

いろいろに かわります。

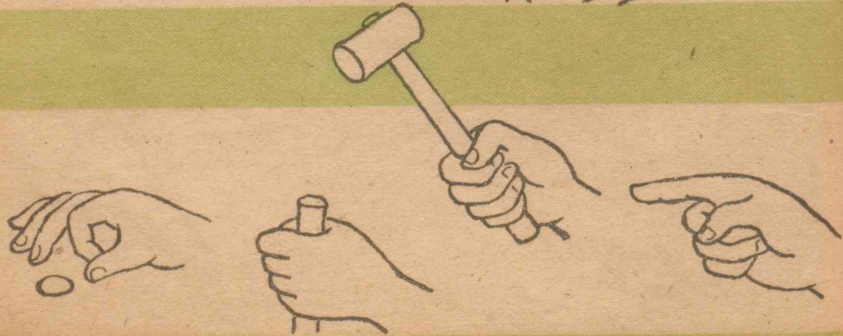
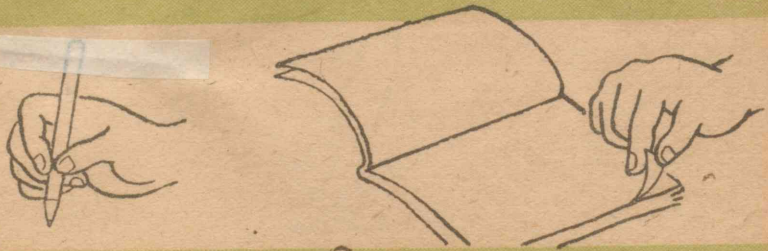
○

「げさ、あなたは、その 目で なにを みましたか。」  
 「きのう、その みみで なにを ききましたか。」

へ 十三 手と 足

手は 二ほん、  
 みぎ ひだり。  
 足も 二ほん、  
 ひだり みぎ。

手と なかの いい こ  
 とば。





もつ、にぎる、なげる。  
 まだあります。

足となかのいいこ  
 とば。

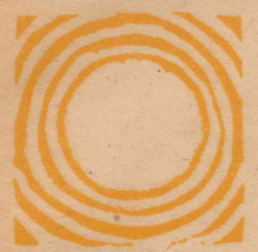
たつ、あるく、はじる。  
 ほかにありませんか。

この手で、なにをも  
 ったでしよう。

この手で、なにをもつ  
 でしよう。

この足で、どこへいっ  
 たでしよう。

この足で、どこへい  
 でしょう。



お日さまと  
 十四 ひとつの  
 ことばから  
 ひとつの  
 ことばから、



おもいだした ことばを、つぎつぎと かいて みました。

ただおさんの かいた ことば。



お日さま — おつきさま — おほしさま —  
くも — かぜ — あめ — ゆき — きた  
— みなみ — にし — ひがし —

みちこさんの かいた ことば。

お日さま — おかあさん — かがみ —  
くし — 手ぬぐい — ふきん — おへや —



なか — そと —

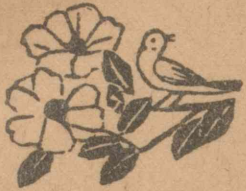
まことさんの かいた ことば。

お日さま — にじ — あか — あお —  
きいろ — まる — 四かく — 三かく —



よしこさんの かいた ことば。

お日さま — はな — ことり — とぶ —  
なく — とまる — かくれる —



十五 なんて みたい もの

「なににでも なる ことが できるなら、ただおさんは、  
なにに なんて みたいと おもいますか。」

「かぜに なります。」

「なぜ、かぜに なりたいと お」

「もいますか。」

「かぜに なって、どこでも ど」

「んどん ふきまわって みたい」

「のです。」



「みちこさんは なにに なりますか。」

「わたくしは はなに なります。」

「その わけは。」

「きれいな はなに なんて、お  
へやを かざりたいからです。」



「まことさんは。」

「うみに なります。」

「どうして。」





「うみになって、せかいじゅうのおふねをうかべたいからです。」

「よしこさんは。」

「ごどりに なります。」

「それは なぜですか。」

「たかい 木に とまって、

うたを うたいたいから」

です。」



十六 だんだん くわしく なる

かぜが ふきます。

かぜが そよそよと ふきます。

あさかぜが、そよそよと のはらを ふき

ます。

川が ながれて います。

川が、さらさらと ながれて います。

ちいさな 川が、うちの まえを さらさら

らと ながれて います。

いぬが はしって きます。

しろい いぬが はしって き

ます。

しろい こいぬが、むこうから

ころげるように はしって きます。

あさがおの はなが さきました。

あさがおの はなが いったつ さきました。

うすももいろの あさがおの はなが、いったつ かきね

に さきました。

ゆめを みました。

ゆうべ、おもしろい ゆめを みました。

ゆうべ、おとうさんと きしゃに のって、お月さんの

ところへ いった ゆめを みました。





ほたる。 ○  
うちの なかで はなした。  
でんとうの したを、  
くろく すうっと とんだ。  
はしらの かげで、  
ぴかり、  
ぴかり、  
ひかった。



十七 山の つつじ  
山の つつじが さいた。  
まっかな つつじが いっぱい。  
かっこうが ないてる。  
かっこう。  
かっこう。  
つつじから ないてる。  
かっこう。  
かっこう。  
かっこう。



○  
せんせいの 目の なかに、  
わたしが いますよ。  
みんなも うごいて いますよ。  
木も はえて いますよ。  
せんせいの 目の なか、  
ひろいな。

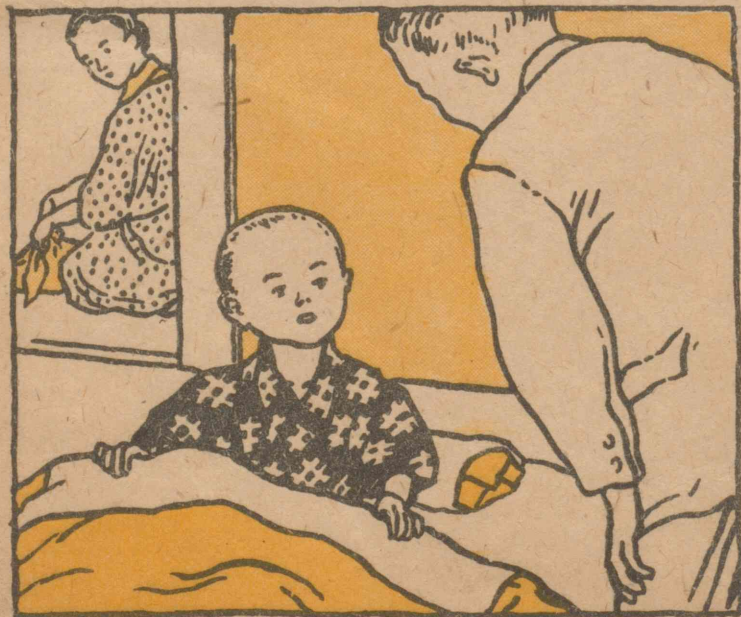
十八 お月さんの

くに

(一)

よなかに 目を あけると、  
おとうさんが そばに たっ  
て いました。

「さあ、お月さんの くにへ  
いくんだよ。いそいで、で  
かけよう。」



「おかあさんは」

とききますと、どこかで

「たろうさん、わたし おるすいよ。ふたりで 行って

いらっしやい。」

と いう こえが しました。

(二)

ふたりは いそいで えきに いきました。

「お月さんの くにへ おいでのかたは、こちらへ お

ならびください。」

かくせいきが よんで います。

「げんさが あるようですね。」

「もちものを しらべるのだ」

よ。」

こんな こえが きこえます。

す。

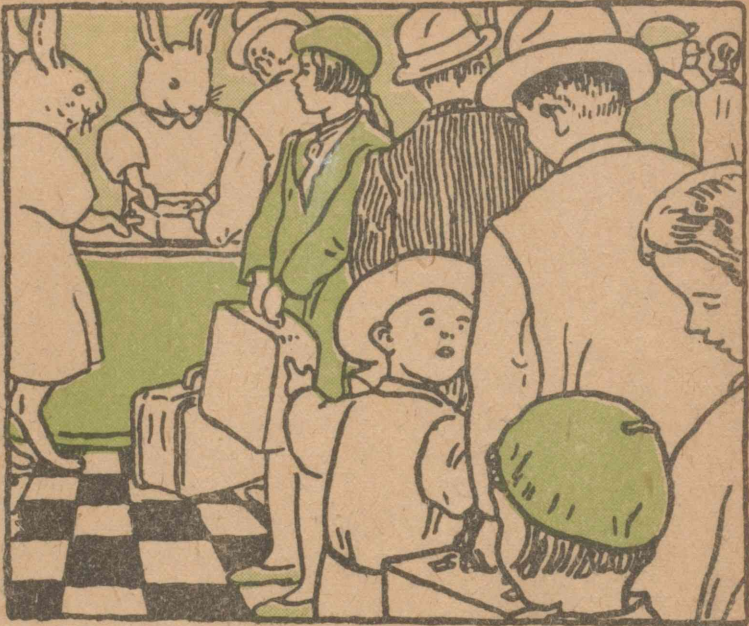
だんだん わたくしたちの

ばんが ちかづきました。

へやの なかでは、しろい

人たちが、ながい みみを

きものを きた おんなの 人たちが、ながい みみを





かたなだの、てっぼうだの、あぶない　ものはみんな  
とりあげられて　しまいました。

(三)

わたくしたちの　ばんが　きました。

かばんを　あけて　なかを　みせますと、

「いいですよ。さあ、あちらの　へやへ　いらっしゃい。」

おんなの　人が　やさしく　いいました。

つぎの　へやで、こしを　かけて　まって　いますと、

おおきな　むしめがねを　もった　おじいさんが、やっぱ

り　ながい　みみを　ふりふり、わたくしたちを　よびま

した。

おじいさんは、わたくしを

むしめがねで　のぞいて　み

ながら　いいました。

「これは　いい　おこさんだ。

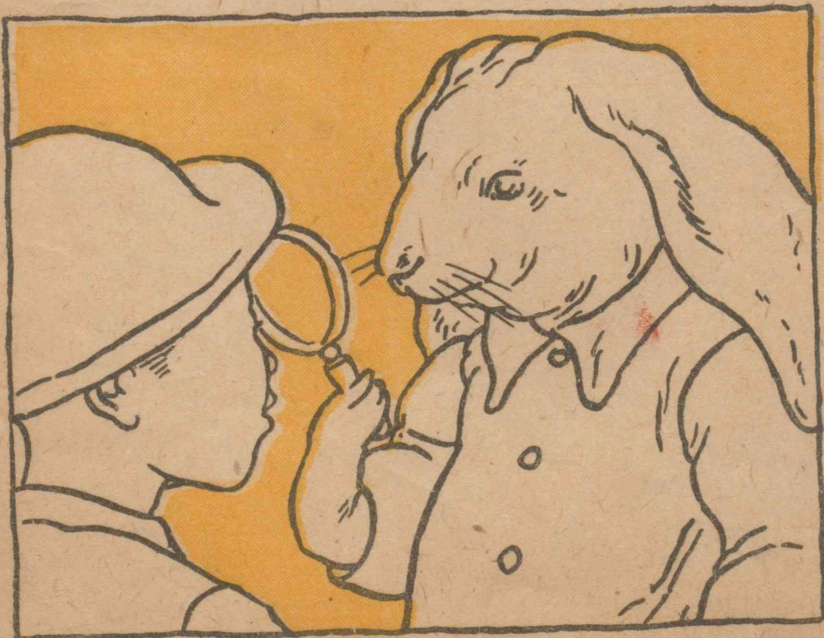
げんきな　いい　おこさん

だ。」

そう　いって、おとうさん

の　もって　いた　四かくな

かみに、まるい　おおきな



はんを おして くれました。

(四)

きしゃが きました。

かくせいきの こえが、また ひびきました。

「きしゃは すいて います。ごじゅんに ゆっくり お

のりください。」

おとうさんは、うしろの おきゃくさんの にもつを

もって あげました。わたくしは、おばあさんの 手を

とって あげました。

よにんが むきあって、なかよく こしを かけました。

へやには、きれいな はな

が かざって ありました。

ぴいっと、しゃしゅうさ

んが ふえを ふきました。

きしゃは すぐ はっしゃ

しました。

(五)

きが ついて みると、さ

っきの 人たちも、しゃしよ

うさんたちも、ほーいさんた



ちも、みんなながいみみのある、あかい目のうさぎさんでした。

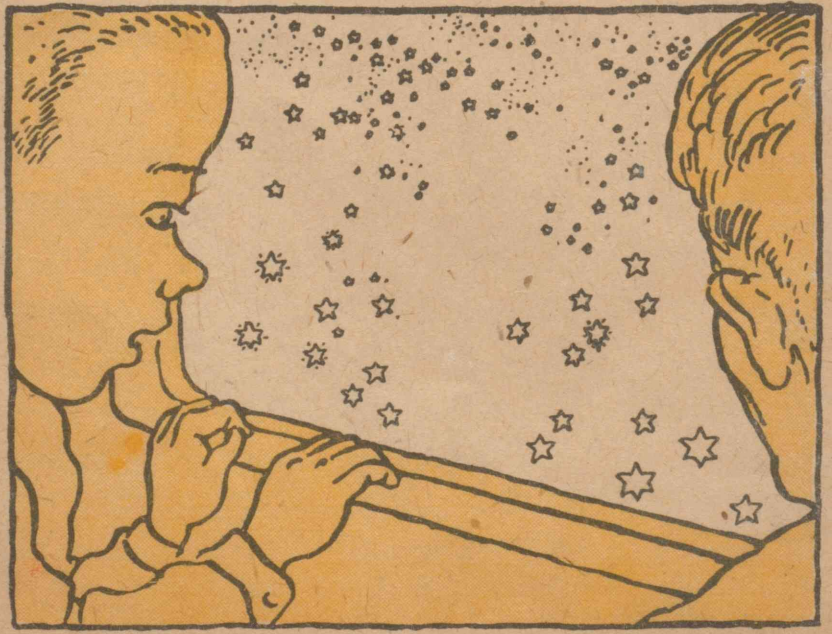


「なんだ、みんなうさぎさんじゃないか。」  
 「やっどきがついたの。お月さんのくにのきしゃだもの。」  
 おとうさんもおきやくさんも、みんなわらいました。  
 しゃしうさんがまわってきて、いいました。

「きしゃは、まもなくくものどんねるにはいります。みなさん、どうかゆっくりおやすみください。」  
 「さあねましよう。」  
 よにんは、もたれあって、くうぐうとねてしまいましたが、

(六)

すずしいかぜがふきこ



んで きたので、目が さめました。

もう あさでした。

おおきな 川が ながれて いました。

「これは なんと いう 川だろう。」

ひとりごとを いうと、となりの おじさんが、

「これは あまの川ですよ、そら、ところどころに、おお

きな ほしが ひかって いるでしょう。」

おとうさんも 目を あけました。

「かわらの すなは、みんな ちいさな ほしみたいです  
ね。」

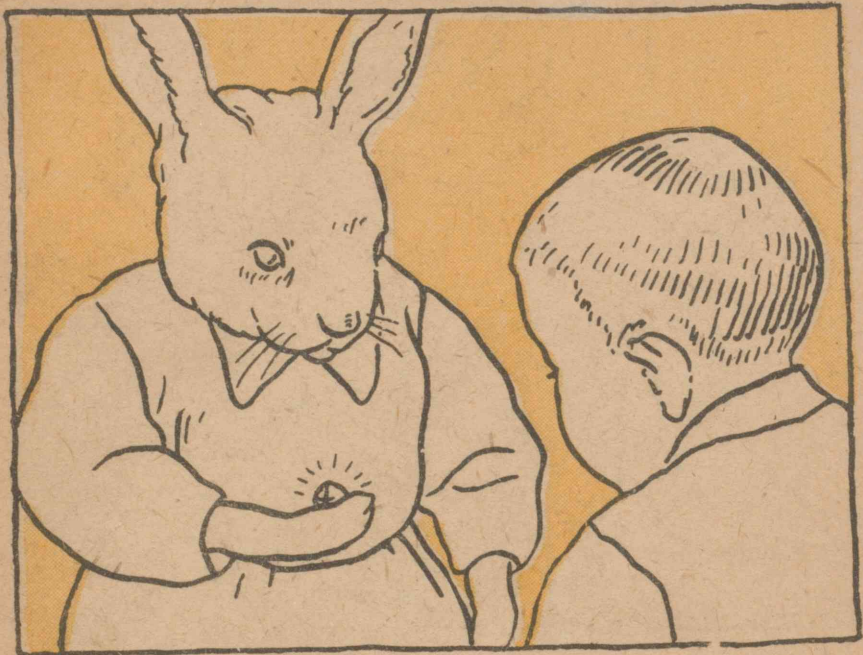
「あれは、みんな だいやもんどですよ。」

「ひとつ ひろって いて おかあさんの おみやげに  
したいな。」

と、わたくしが いった とき、しゃしゅうさんが きま  
した。

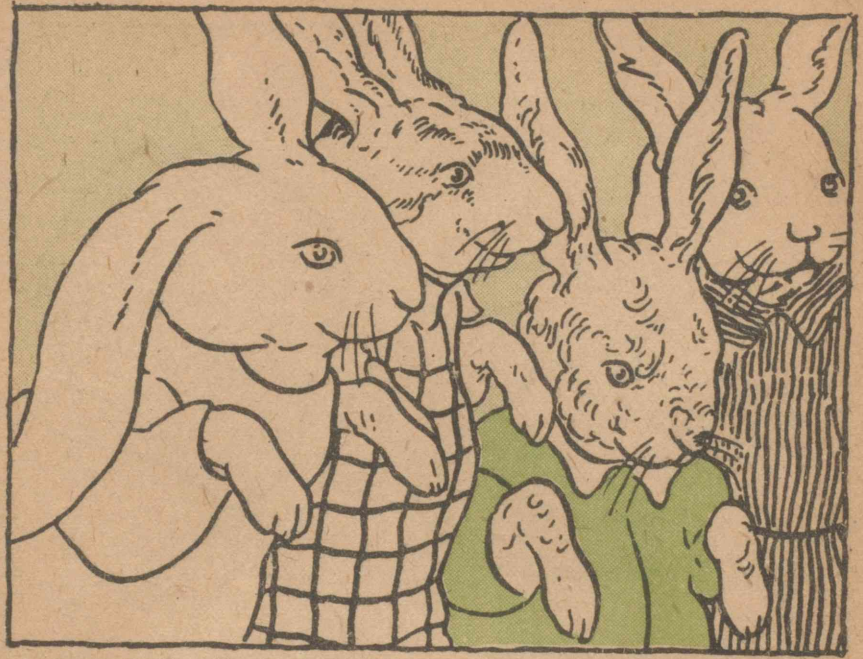
(七)

「あれは ふしぎな だいやもんどですよ。しんせつな  
いい 人が ひろうと、だいやもんどですが、いじの  
わるい けんかずきの 人が ひろうと、ただの いし  
ころに なって しまいます。」



ぎの としの たまひろい  
で、きれいな たまが ひ  
ろえたら、また お月さん  
の くにへ 入れて もら  
えます。」  
「あなたは その たまを  
もって いますか。」  
「ここに もって います。」  
と いった、ぽけっとから  
うずらの たまごほど ある

「じゃしょうさんは、ひろった ことが ありますか。」  
「ええ、いくども ひろいました。この お月さんの く  
にでは、一ねんに 一ど たまひろいに、この かわら  
に きます。そうして、たまが ひろえたら、お月さん  
の くのに なかまに 入れて もらえます。」  
「ふうん。」  
「たまが ひろえなかったら、どう なりますか。」  
「おとうさんが、ききました。」  
「そんな ときには、はなればしに ある がっこうに  
は行って、べんきょうして くるのです。そうして、つ



だいやもんどを ひとつ  
りだして、わたくしに mise  
ました。

(八)

おべんとうを たべて、ち  
よっと うとうと すると、  
きしゃは もう ついて い  
ました。まどの ところに、  
みおぼえの ある かが、  
たくさん ならんで います。

た。

しろちゃん、はねちゃん、ぴよんちゃん、まきげちゃん、  
みんな わたくしの うちに いた きょうだいです。

きしゃから かけおりにて、手を とりあいました。

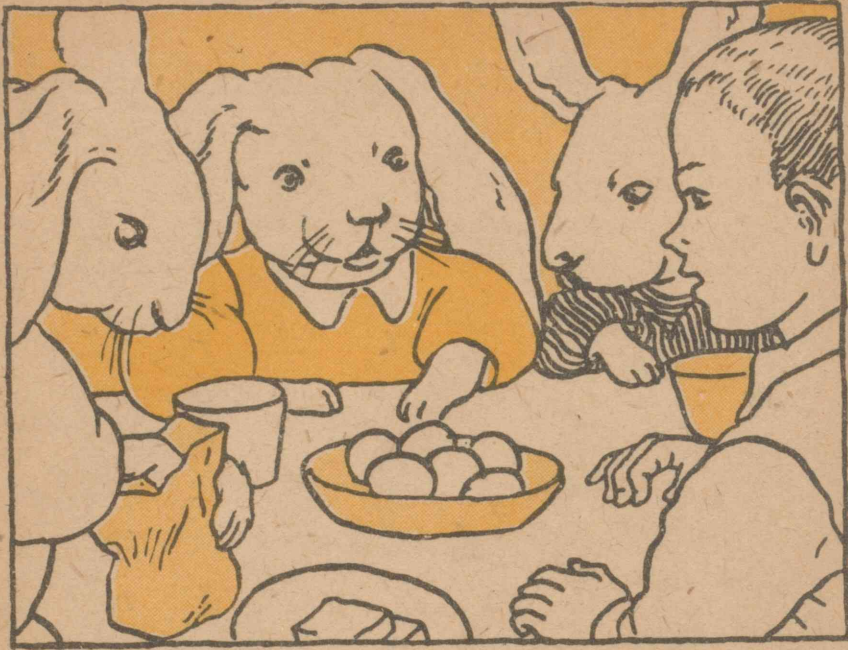
「たろうさん、よく いらっしゃいました。」

「みんな げんきで うれしいな。」

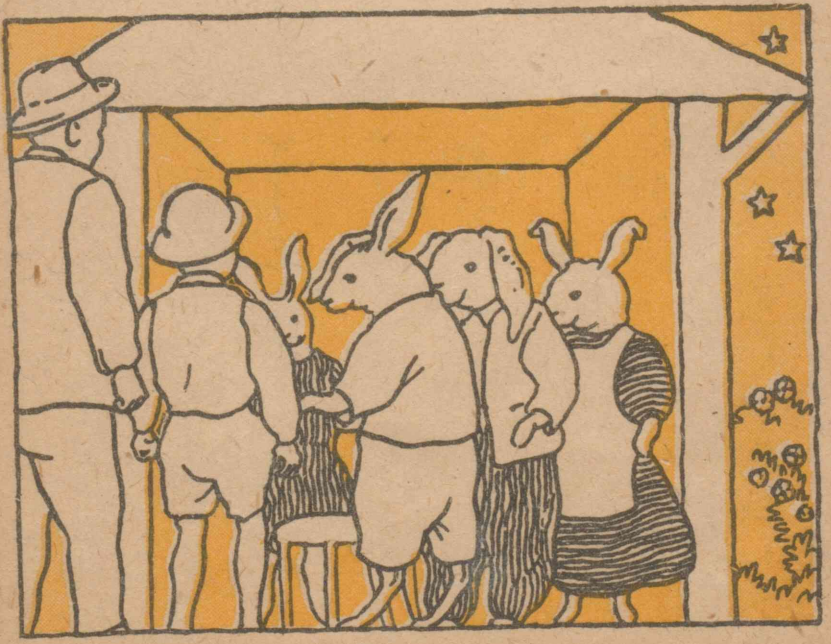
(九)

「やっぱり おみみ なおらないのね。」

わたくしは、かたほう だらりと さがった しろちゃ  
んの みみを みて ききました。



「ありがとうございます。ごさいます。  
 あのとき、たろうさんが  
 しろいぬをおってくだ  
 さらなかつたら、どうな  
 っていたか、わかりませ  
 ん。あなたはいのちの  
 おんじんです。」  
 と、いって、おれいをい  
 ました。  
 それから、そろって、しろ



ちゃんのうちへいきました。  
 しろちゃんのうちは、つ  
 きみそうのさいている  
 おはなばたけのなかにあ  
 りました。  
 おじいさんも、おばあさん  
 も、きょうだいも、みんな  
 よろこんで、めいぶつのお  
 だんごや、おもちを、ごちそ

うして くれました。

(十)

「あなたの おうちに おいて いただいた おかげで、  
しろちゃんは、げんきな こに なりました。ぴょんち  
ちゃんも、きれいずきな いい こに なりました。はね  
ちゃんも、ものを はっきり いう いい こに なり  
ました。まきげちゃんも、おともだちと なかの いい、  
やさしい こに なりました。おかげさまです。」  
と、おじいさんは おれいを いただきました。

「それでは、みんな、あまの川で だいやもんどを ひろ  
って きたのですね。」

「たろうさん、よく ごぞんじです。ここに いる も  
のは、みんな、たまを ひろった なかまですよ。」

おじいさんが こう いうと、しろちゃんは ふくろか  
ら だいやもんどを とりだして、

「これを たろうさんに さしあげます。どうぞ おかあ  
さんの おみやげに して ください。」

と いいました。

「でも、わたくしが もったら、ただの いしころに な  
って しまわないかしら。」





どうして、たろうさん。あなたも、おとうさんも、おか  
 あさんも、みんな いい 人ですもの。どなたが おも  
 ちになっても、たまは やっぱり たまですよ。  
 と、いって、わたくしの 手に たまを おしつけました。  
 (十一)  
 よるに になると、おどりが はじまりました。きゅうに  
 あたりが あかるく なりました。でんとうでも ついた  
 のかと おもって みまわすと、山の うえから、おおき  
 な お月さんが てる ところでした。

「おおきな お月さん。」

と、いいますと、  
 「いいえ、あれは たろうさ  
 んたちの おくにですよ。  
 それで あんなに おおき  
 いのです。」  
 と、おじいさんが、いいまし  
 た。  
 おんがくに つれて、みん  
 なが 手を とって おどり  
 ました。おとうさんも、わた

くしも、わの なかに はいって、おはなばたけを おど  
りまわりました。わたくしは、「みんな いい こを、おお  
きな こえで うたいました。

「ああ、つかれた。ひとやすみ。」

わたくしは、そこに あった こしかけに もたれて、  
うとうと しました。

(十二)

「まあ、たろうさんの よく ねて いること。」

おかあさんの こえで 目が さめました。おもわず

ぼけつとを さぐりました。

「まあ、おかしな 人。どうか  
したの。」

「あまの川の だいやもんど、

おかあさんの おみやげに

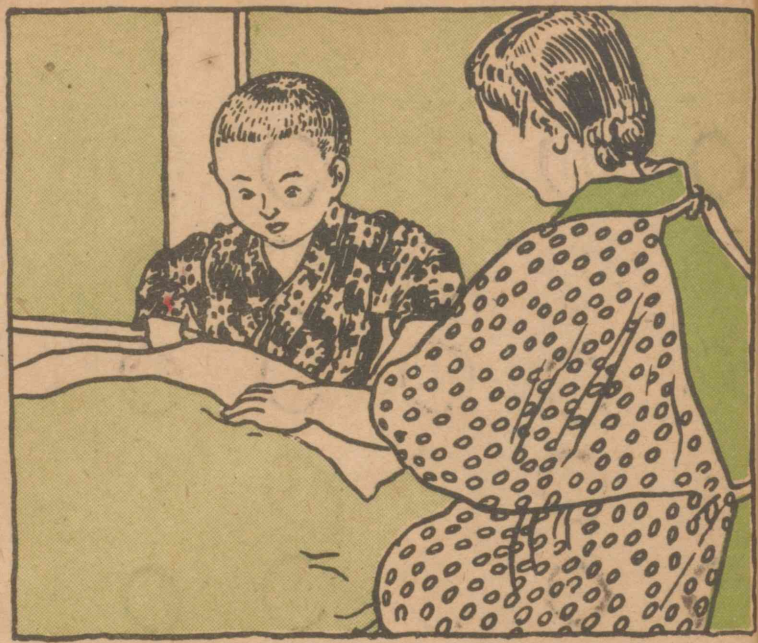
いただいたの。」

「だいやもんど。それなら、あ

なたの 目の なかに ふた

つ ひかって いますよ。」

わたくしを ひぎの うえに



と いて、おかあさんは、  
だきあげて くれました。

ん	わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
	ゐ	り	い	み	ひ	に	ち	し	き	い
	う	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
	ゑ	れ	え	め	へ	ね	て	せ	け	え
	を	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お

ぴ ゃ	び ゃ	ち ゃ	じ ゃ	ぎ ゃ	り ゃ	み ゃ	ひ ゃ	に ゃ	ち ゃ	し ゃ	き ゃ	ば	ば	だ	ぎ	が
												び	び	ち	じ	ぎ
ぴ ゅ	び ゅ	ち ゅ	じ ゅ	ぎ ゅ	り ゅ	み ゅ	ひ ゅ	に ゅ	ち ゅ	し ゅ	き ゅ	ぶ	ぶ	づ	ず	ぐ
												べ	べ	で	ぜ	げ
ぴ よ	び よ	ち よ	じ よ	ぎ よ	り よ	み よ	ひ よ	に よ	ち よ	し よ	き よ	ぼ	ぼ	ど	ぞ	ご

日 人 五 一

(31) (25) (12) (4)

木 目 六 二

(36) (27) (14) (6)

川 口 七 三

(37) (27) (15) (8)

月 手 八 四

(39) (29) (17) (9)

山 足 九 十

(40) (29) (18) (11)

